

土屋グループとクライアントをつなぐ月刊誌

広報

土づくり



とにかか有名に挑戦！ いつか有名に！

仙台在住で、現在25歳の黒崎辰宜さんは、高校進学時より入所生活を送ってきました。在学中に起業するなど、活動的な黒崎さんはYouTubeでも活躍中。現在、一人暮らしを準備中の黒崎さんにインタビューしました。



■起業への挑戦

僕は高校在学中にパソコン制作関連の仕事を始めました。幼い頃はパソコンを使って、ゲームをしたりして遊んでいました。地元の中学校に通うようになると、先生からワードなどの使い方を教わり、授業で活用するようになったんです。中学3年の時、手書きで授業のノートをとることができなくなったのでワードでまとめたり、友達の前で発表するときにはパワーポイントを使っていました。ちょうどその頃、放送されていたドラマ「リッチマン、プアウーマ

<プロフィール>

名前：黒崎辰宜さん
障害名：筋ジストロフィー
出身：宮城県多賀城市

ンに憧れて、いつか自分もパソコンを使った仕事で起業してみたいと思っていました。

中学卒業後は、特別支援学校高等部への進学に伴って実家を離れ、病院の筋ジストロフィー病棟に入所することになりました。学校は病院の隣にあつて、朝、病棟

から学校に行き、授業を受けて帰ってくるという生活を送っていました。そうした中で、会社を作りたいという思いが膨らんできたんです。大学で経営、経済学などを学んでから起業したいという考えもあつたんですが、先生に相談してみると、大学に行かずに高校卒業後に起業する人もいるとのこと、思い切つて在学中に挑戦することにしました。

■好きなことを形に

高校生のときに助成金を使って、大学の先生を招いて、「友達の作り方」

の講演を企画運営したこともありました。というのも、自分は人見知りで、友達を作るのが苦手です。初めてお会いした人に、どう声を掛けていいのか分からないので、そういった話を聴きたいと思い企画しました。現在はイベントの準備や、名刺やチラシのデザインを考えて、それをパソコンで作ったりする仕事をしています。

イベント企画や名刺などのデザインは好きなので、自分なりにちよつとずつ楽しみながらやっています。病院内で名刺が必要だという方から依頼を受けたり、病棟でのクリスマス会や夏祭りといったイベントの企画を依頼されたりもします。

■とにかくやってみる

高等部に在籍している頃、学校の職場体験で楽天イーグルスを訪ねたことがあります。以前から、楽天の球団で働きたいという思いがありました。しかし、なかなか難しく、しかし何かしらのつながりが欲しくて、個人的にイーグルス新聞というのを作りました。ネットや新聞の記事を要約して、自分の思った言葉で感想などを書いて、病棟に掲示しています。また、病院のスタッフの力も借りながら、楽天イーグルスの野球観戦ツアーを企画したこともありま

す。その時もただ野球を見に行くだけではなく、球団に手紙を書き、「試合が終了した後に、野球選手とお会いしたい。お話して、勇気をも

らいたんです」とお願いをしました。結果、球団側も快く引き受けてくださり、所属選手とも会うことができました。参加してくださった方にも楽しんでいただけて、企画準備した甲斐がありましたし、今後でもできる限りいろんなイベントを企画したいと思っています。

■いつか有名に

小さい頃からテレビに出る仕事に憧れていて、昨年複数の芸能事務所に応募したのですが、全部落ちてしまいました。でも有名になりたいという夢が一番強くあるので、高校生の時YouTubeを始めました。頑張ればYouTubeで有名になれるということを知り、「KURO CHANNEL」というチャンネル名で音楽系の動画を上げています。学校の先生にピアノを演奏してもらい、自分で歌を歌って、それを撮影しています。撮影後は自分で動画を編集してアップしています。動画編集も大好きなので、何時間でも編集作業をしています。今はこうした音楽系の動画が中心ですが、今後はVlogや商品紹介など、色々な動画を作成したいと考えています。



「KURO CHANNEL」
はこちらから！

■在宅での一人暮らしを
目指して

高校進学時から10年ほど病院で生活しています。家族には、高校を卒業したら退院して家に帰りたいという話をしていたのですが、体調を悪くしたり、いろいろなことがあり、戻るということができなくなりました。とはいえ、ずっと病院にいたいと思っ

ている訳ではなく、可能なら実家や外で暮らして自分なりの生活リズムを体験したいと思っています。今の状態なら一人暮らしも可能と医師からも言われているので、その選択をした

傷が付くのでは…などと不安がられ断られることもありません。なるべく自分の希望に沿った物件を見つけたとは思いますが、妥協できるところは受け入れながら辛抱強く探したい

■障害を言い訳にせず、
チャレンジを

障害があるからできないとか、やれないというのが一番嫌です。色んな人に手伝ってもらったり、使える制度は使いながら



があって嫌だと思ったことはないです。逆に、障害があるからこそ、できることがあるし、これまでも障害という武器を使って、野球選手にお会いするとか、普通ではできないことを体験す

ることもできました。なので、障害を持つていることが全く嫌ではないし、逆に良かったと思っています。

4年前、妹が事故で亡くなりました。病院でも友人を病気で亡くしています。その時、一番強く思うのが、「その人たちには夢や、やりたいことがあったんだ」ということです。だから、自分に何ができるかは分からないけれど、その人たちの分まで長生きして、夢ややりたいこと、挑戦したいことを諦めずにやろうと。それを、今まで以上に思うようになりました。僕はSNS、テレビ、ラジオ、なんでもいいけれど自分の夢である「有名人になる」ということになげられるよう、やれる範囲のことはやりたいと思っています。

■ホームケア土屋東北 オフィスマネージャー
佐藤さんからのメッセージ

今は不定期ではありますが月に1〜2回ほど、4時間の移動支援をしています。外出して物件探しをしているのですが、なかなか思うような住居が見つかりません。十一月までになんとか物件を見つけて、重度訪問を使いながら黒崎さんの長年の夢であった一人暮らしをスタートできればと思っています。

家族
あるある
配慮は辛い義務ですか？

外出すると何かしらの差別感情を向けられて疲労困憊することがあります。よく障害自体の認知度を向上させることが差別を無くす方法のひとつだと言われますね。知って貰う為に伝え教えずに差し出したものが辛い義務ではなく、貴重な贈り物だと感じられるようなことであるべきです。」と名言を残しています。逆に言えば、伝え方を誤ると障害のある人への配慮自体が「辛い義務」になり、反発する人が出てくると言う事でしょうか。先日、夫と新幹線の車いす席の購入の為に窓口に行くこと、無配慮で無礼な態度で接客され、必要もないのに個人情報を書けと言われました。しかし、その人に個人情報を知られたくないので直ぐに違う駅の窓口に移動し、「この会社は障害者には無礼な態度を取っても良いと教えているのか」と問いましたら、当然、そんなことは無いと。だとすれば、あれは障害者への対応を「辛い義務」と捉え、対応自体に反感を持っていたからこそ出た態度だったのでしょうか。そう考えれば、あの窓口担当者もお気の毒ですね。障害者差別のない社会にする為にも、幼いうちから家庭や学校での教育で認知度を上げて、障害のある人に関わる全ての人が「辛い義務」ではなく「貴重な贈り物」に感じられる教育を受けて欲しいです。夫は、ただ当たり前の対応をして頂きたいだけなのです。こもとゆみこ(夫が1種1級の脳性麻痺)

広報・土づくりへの
ご意見・ご感想



土屋グループの各種取組みについてのご意見や、当社介護サービスにおいて虐待や不当な身体拘束が疑われる場合がありましたらご一報ください。ご意見・お問い合わせ窓口 client@care-tsuchiya.com



発行元:株式会社土屋
住所:岡山県井原市井原町192番地2
久安セントラルビル2階